

①

「バタバタ茶の話」

文 中村栄美子

絵 吉原 晴美

いといがわ

糸魚川には昔から「バタバタ茶」という珍しい風習があります。

バタバタ茶は女達がいろりの回りに集まって、気ままに茶せんを振って泡立てて飲む、お茶のことです。

どこかに出かけることもなく、何の娯楽もない山村や、漁村の女性がお茶でくつろぐ、それは楽しいひとときがこのお茶会だったのです。

②

使用する道具は、

たらいの中に茶わん、塩入れ、塩さじ、茶せんを入れます。

てつびん

茶の間のいろりには鉄瓶にお湯が沸かされ、

ごとくの上にやかんが置かれて、お茶が煮出されています。

お茶はプンプンいい匂いをあたりに漂わせています。

③

お茶袋の中身は「番茶、カワラ茶、お茶の花、いり豆」です。

バタバタ茶は食べ物がない時代、重要な間食の一つで、泡を立てたお茶を飲んで空腹をしのいだといわれています。

他にも、

病気がりの人には回復が早い。

胃腸が丈夫になる。

利尿作用がある。

など、薬草茶ならではの効能があるといわれています。

④

糸魚川は漁師町で、海岸沿いに家が密集して建てられてお
った。

トシのばあちやの家も寺町の浜通りにあって、隣近所の五・
六軒が仲間になって茶会をし、茶会の宿は一週間をめどに次
の家へと交替していたとき。

⑤

トシのばあちやが朝の片付けを終えると、

「今日から、おらん家がお茶宿だ。手伝ってくれや」

といいながら、孫のトシに、

「お茶うけはたくわんに、野沢菜、煮豆もある。トシやあ、

落とさんようにいろいろ端に運んでおくれ」

といいつけるとさ。

「ええくと、お茶はヤカンに煮立ててあるし……準備はい

いな……」

⑥

ばあちやばあちは独り言のようによく、

近所のお茶仲間の人に、

「お茶のみにござい」

「お茶だけ」

と声をかけるとき。

⑦

お茶仲間のばあちや達は” 待ってました ” とばかり
いそいそとやって来て、

「お茶よばれにきましたわいね」

「遠慮なしに寄せてもらいましたぜね」

⑧

とそれぞれに言うと、トシに、

「トシちやや、いくつになつたい」

と声をかけながら、いろりのまわりに座るとき。

トシは小さな手を出して、

「五歳、五つになつたよ」

とかわいい声で答えると、ばあちや達は笑いながら、

「そうかい、そうかい」

「大きゆうなつたのう。どれどれ・・・」

とうなずいては、かわるがわるトシをひざに抱いてやるとね。

⑨

トシのばあちやは、

「よう来てくんなった」

と挨拶し、いろりの自在かぎにかけられた鉄瓶から、

ひしやくで湯をくみ、

茶わんと茶せんをゆすぐとき。

ヤカンから煮出したお茶をひしゃくで

一パイ半くみとって茶わんに入れ、

塩を少し入れて、山竹を二本連ねた茶せんを

「バタバタ」す早く動かすと、

泡が盛り上がってくる。

細かく泡立ったら、最後に二・三回底を回してできあがり。

ばあちやはトシに、

「仏壇にあげてきておくれ、こぼさんようにな」

と一番茶を渡すと、一人一人にお茶をたててもてなすとき。

そのうち、

「おらの話を聞いとくれ」

「おれの話も聞いてくれ」

「漬物の塩のあんばい教えとくれ」

「大根のうまくい煮方を教えてくんないや」

とお茶を飲みながら、話がはずみ、

それはにぎやかに女達の茶会は続くそうなの。

「ばあちや、お茶って楽しいね」

「そうだよ。このお茶会のおかげで近所は仲良うなるし、漬物も煮物もみくんな教えてもらえるんだわい」

「お茶飲んでおしゃべりしていると、年もとらんし元気でおれる。お茶ってええもんだ」

トシはばあちやの横に座ってお茶を飲みながら、

「この茶わん、大きいね。トシはやあつと持っとる・・・」
と言いました。

ふじな

「そうじゃなあ、この茶わんは布志名焼ふじなきといって、バタバタ茶はこの茶わんでなきやならんといわれとるんだが、トシには大きすぎるなあ」

お茶会は十二時をめどに終わり。

ばあちや達は

「ごつつおになりました」

「ええ、じよんのび(ゆっくり)さしてもらいましたわいね」

「ありがとうございますでした」

と口々にいって自分の家に帰り、草むしりやわら縄編み、

つくろい仕事に精をだしたそうなの。

あれから長い年月がたち、小さかったトシは近くに嫁ぎ、

息子にもめぐまれ孫も大きくなって、八十八歳になりました。

腰も少し曲がったけれど、まだまだ元気！

しかし、世の中は大変身！

家の中にいろりがなくなり、核家族化がすすんで、バタバ

タ茶の風習はすっかり消えました。

近所が集まってお茶を飲んで、山菜の煮方を相談したり、世

間話をしたりすることも少なくなっています。

平成五年

糸魚川の良き風習を残していこうと有志が集まって、

「バタバタ茶の会」を発足させました。

トシも仲間に入れてもらい、幼い日の思い出をひもときな

がら、昔懐かしいバタバタ茶をたてて飲んでいきます。

ゆつくりの時間を楽しみながら、

「風習を復活させて、昔の親しい近所付き合いを取り戻した

いもんじゃ。淋しい年寄りも救われるし、大人も、子供も、

明るく元気でおられる。そして、住みやすい（おらがふる

さと）糸魚川になるだろうに・・・」

とトシは思うのです。

終わり

参考文献

民俗資料選集 振茶の習俗 漆間元三

仏経民俗 バタバタ茶 清原為芳

タテ茶の風習 相馬御風

聞き取り資料